

令和元年度 第1回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

令和元年11月6日 開会

令和元年11月6日（水曜日） 令和元年度 第1回寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹		
寒河江市教育長	軽部賢		
寒河江市教育委員	鈴木淳一	國井晴彦	
	高橋まり子	鈴木多鶴子	

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	設楽伸子	総務課課長補佐	佐藤倫久
学校教育課長	大沼利子	指導推進室長	佐竹康弘（欠席）
生涯学習課長	柏倉信一	スポーツ振興課長	小泉尚
学校教育課課長補佐	白田純一	生涯学習課課長補佐	小野善英
スポーツ振興課長補佐	笹原泰治		

○ 日程

令和元年度 第1回総合教育会議日程
令和元年11月6日（水曜日）

午後2時30分 開議
市役所1階 議会会議室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

- （1）寒河江市立図書館の取組と今後のあり方について
- （2）高齢化社会に向けた生涯スポーツの振興について

4 その他

5 閉会

1 開 会 午後2時30分

2 あいさつ (佐藤洋樹市長)

3 協 議 (座長：佐藤洋樹市長)

(1) 寒河江市立図書館の取組と今後のあり方について

○佐藤洋樹市長

それでは早速協議に入りますが、次第に沿いまして、寒河江市立図書館の現在の取組と今後のあり方について、資料をもとにご説明いただいた後、皆様より意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは、資料の説明をお願いいたします。

○柏倉信一生涯学習課長

生涯学習課からは、寒河江市立図書館の取組と今後のあり方の資料について説明いたします。

平成3年12月に現在の図書館がオープンして以来28年目を迎え、現在、利用者のニーズ、施設のあり方等図書館利用者の状況は大きく変化しております。

はじめに、資料の1、現在の主な取組についてご説明いたします。(2) 幼児・児童等への取組といたしまして、乳幼児期からの読書活動推進に力を入れております。内容としましては、①ブックスタート事業として、平成21年度から3か月健診児を対象に、子育て推進課や健康福祉課と連携し、赤ちゃん絵本の読み聞かせや紹介、赤ちゃん絵本2冊を贈呈しております。②絵本の部屋の実施、③子どもに読ませたい本コーナー等の設置や④絵本の選び方の参考リストの作成と対象絵本の展示等をしております。

(3) 利用拡大の工夫としましては、②エントランスを市民ギャラリーとして開放、③ボランティアグループによる読み聞かせ活動、⑥平成30年6月からカフェコーナーの設置、⑦大活字本・大型絵本の充実を行っております。

(4) イベントによる普及活動としましては、①さくらんぼの都市さがえ全国俳句大会の開催、②さがえ図書館まつりの開催、④文学講座の開催等を行っております。

次に2の課題と今後のあり方ですが、主な内容を、課題、現在、展望の順で説明いたします。

①幼児への読書活動への取組の強化は、児童図書蔵書の充実、ブックスタート事業と貸出、継続。②親子で楽しめる図書館は、読み語りで使用する「お話室」が静寂さを求められている。2階に多目的スペースを設ける。授乳室や幼児用トイレ等を設ける。③図書館に関わる人の拡大は読書活動推進員の市立図書館との関わりが個別的なものにとどまっている。本年度、市立図書館と各学校の読書活動推進員が一堂に会する場を設ける。④多様な世代の図書館の活用、は気軽に利用できるスペース設置。軽食持ち込み可能なスペース設置。⑤学生の勉強の場としての利用、は席を独占しないことが求められている。2階の会議室開放を今後も推進していく。⑥駐車場の不足、は現在35台。新たな活用がないか検討している。

3. 多様化する最新の公立図書館の例、としましてランチやスイーツ、ドリンクが楽しめる。利用者にとって居心地の良い空間。複合施設として美術館や商業施設が入るなどが挙げられます。参考資料としまして市立図書館利用状況の推移についてですが、平成20年度と30年度を比較しますとオーディオビデオは貸出が半分以下になっております。スマートフォン等の普

及により、利用形態が変化しているものと考えられます。貸出者数も2割程度減少しておりますが、入館者数は6パーセント増加しております。本や雑誌のある快適な空間として、図書館で過ごす人が増加していることが考えられます。

次に、平成2年建設の山形県立図書館における現在の大規模改修の資料ですが、改修の基本的な考えとしまして、1階は人が集い誰もが気軽に利用できるエリア、2階は静かな環境で読書や学習ができるエリアとして、利用目的に応じた使い方ができる配置とする、となっております。

最後に、現在話題となっている図書館の事例としまして、佐賀県武雄市のレンタル大手企業を指定管理者とし、2013年にオープンした複合施設の図書館の状況を、佐賀新聞掲載記事より紹介いたします。特徴としましては、来館者に占める貸出利用者の割合が低いこと、来館者の伸びほど貸出利用者や冊数が伸びていないこと、市外からの利用者が増加したことが挙げられています。図書館機能の評価判断は難しいと論評されています。以上で説明を終わります。よろしく願いいたします。

○佐藤洋樹市長

ただ今の説明で、市の図書館も築年数の経過とともに、時代に合わなくなっているところもあるのではないかと、ということではないでしょうか。

そういうところを改善していけばよいのではないかとと思いますが、皆さんの方から何かご意見ご質問ある方いらしたら、よろしく願います。

○鈴木多鶴子委員

ただ今の生涯学習課長の説明、今年度はじめに説明を受けました令和元年度の『寒河江市の教育』や『教育委員会事務事業点検評価報告書』を拝見し、第2次寒河江教育振興計画の基本目標・主要施策に則って、きめ細やかで多様な現在の図書館の取り組みが行われていると思いました。利用拡大のための工夫やイベント等、様々な年代での工夫も感じられます。乳幼児3か月検診時におけるブックスタート事業や絵本の部屋事業は、赤ちゃんの段階で絵本に親しみ親子で心を育む習慣づくりになり、読書の習慣づくりにもなりますので長期継続は未来の希望であると考えております。

ブックスタート事業としては、資料のとおり平成21年度からですが、乳幼児健診に合わせた赤ちゃん絵本の読み聞かせや絵本紹介の絵本の部屋は、ボランティアグループにより平成13年度から実施されております。さらに、平成16年度からは同じくボランティアグループの働きかけにより健康福祉課と図書館との連携が実現しております。

赤ちゃんの頃からどの子も絵本に親しみ心豊かに育てほしい、というボランティアグループの願いが届き、平成21年度からは赤ちゃん絵本の贈呈も含むブックスタート事業となり、図書館の事業としてスタートし定着していることを、以前ボランティアとして立ち上げた者としてはとてもうれしく思います。さらなる継続を願います。

施設においても、利用者のニーズに合わせて改善されており、出入口も含めて次第に利用しやすいものになってきております。資料2ページの2. 課題と今後のあり方、についてですが②の親子で楽しめる図書館、これはやはり今の現状としては1階の静かな環境内での親子の自

由な活動、子どもたちの声を気にしながらの利用となっているため、ここに展望としてあるように、2階に多目的スペースを設け気兼ねなく読み語りを実施できる場などはこれから必要となってくるのかなと思っております。また、親子に限らずちょっと会話をしながら利用するか、気楽に利用できるスペースも併せて必要になると思います。

次に、資料3ページの④多様な世代の活用、についてですが、カフェコーナーが新設され、私自身実際に利用しましたが、少し暗いためリラックスして利用できるまでにはいかないようなスペースでした。疲れた際のコーヒーを飲んでリフレッシュの場としては大変よいと思いますが、コーナーのさらなる工夫が必要だと感じました。もう少し明るくくつろげるような場の提供、また場所的になかなわないのであれば、季節限定にはなりますが図書館の外の庭に、ベンチと日よけ傘などを置いてオープンカフェのようなかたちで、図書館利用者が飲み物や軽食を持ち込んでくつろぐ憩いのスペースを設けることもよいのではないかと思います。

次の⑤学生の勉強の場について、今後の展望として、学生のテスト期間中、2階の会議室開放について今後も推進していくとありますが、中学校にもPRして、中学校でも地域と一体化した教育が進みつつありますので、中学生への図書館会議室開放PRを勧めていくこともよいのではないかと思います。また、夏休みに自由研究支援ということに関しては大変良いと思いますので、進めていただければと思います。

⑥駐車場の不足に関しては、以前から課題であると認識しており、利用しやすい図書館の実現のためには駐車場の確保が必要だと誰もが思っていると思いますのでよろしくお願いします。

最後になりますが、居心地の良い快適空間、そしてつながり合う空間になるようにお願いいたします。また、図書館職員の丁寧かつ優しい対応にも心を和ませています。引き続きよろしくお願いいたします。以上です。

○佐藤洋樹市長

ありがとうございます。その他、ひととおりのご意見を伺いたいと思います。

○高橋まり子委員

ただ今の資料にありましたとおり、図書館の事業も本当にきめ細やかで色々なことにわたって考えていただき、大変すばらしい事業をしていると思っております。私は図書館をよく利用しますが、一利用者としてベンチの具合や室内の明るさや利用しやすさ等、素敵な図書館だと感じております。

その中で、やはり1つ気になる点としましては、絵本を選びに行くことが多いのですが、親子連れの方たちで、子どもが騒がないように注意する保護者の方の声をよく耳にし、周りに遠慮しながら絵本を選んでいくということです。図書館ですので、やはり静寂さを求められるのは当然だと思うのですが、最近の他の図書館を見ると少し物音や話し声が聞こえても差し支えない幼児、低学年向けの囲われたスペースや、遊び場のようなスペースが隣接しているような空間にもなっているのを最近見かけますので、今の現状でどういうことができるかわかりませんが、親子が来やすい場所づくりということは、強く考えていく必要があると思います。

それに併せてですが、図書館が本を読むためだけではなく、人が集う場所としての機能が望まれてきていると感じております。公民館の役割も兼ねるといった、複合性も必要になるので

はと思います。交通手段を持っていない地域の高齢者の方々は、町内会の公民館などそういったところに通うことになるので、公民館が図書館の機能を持ち併せた、もう少しオープン的なものになればいいのではないかと感じています。

○鈴木淳一委員

資料を拝見し、20年前は雑誌が多くて、今は少なくなっている現状にも関わらず利用者数は増えていると感じました。私自身図書館を利用しておりますが、傾向としては本を借りるというよりもその場において雑誌や新聞を読む等、滞在している方が多いのかなという印象を受けました。それも一つの成果でもありますし、コーヒーを飲んでいる方もいらっしゃいましたが、持ち込めないというのが他とは違うところなのかなと思いました。山形市や東根市、米沢市等、新しい図書館ができておりますが、それらには一つの売りがあるのかなと感じました。それらの売りによって図書館を利用してもらうのも一つの形なのかなと思います。また、居心地の良い空間を目指す図書館を考えるにあたり、私は椅子というものについて考えていきたいと思えます。もし、寒河江市で新しく人を呼び込めるような椅子を配置して、来客を呼び込んでも面白いのかなと思います。

○國井晴彦委員

インターネットの普及により活字離れが世間で話題となる中で、新聞を読む人、本屋に行く人も減っている中で、図書館の利用者増加はなかなか難しいと思います。図書館の利用に関しては、静寂で本が読みやすい図書館を目指すのか、またはより多くの市民に図書館を利用してもらうことを目指すのか考えが分かれるところですが、私が考えたのは、例えば書店に行くところ「店長のおすすめ」や「売上ベスト3」等として、商売なのでそういったもので興味を引き寄せるやり方があると思いますが、市立図書館でも市報などにそういうのをどんどん載せて、利用者の興味関心をひくような、そういったちょっとした努力があってもいいのではないかと思います。また、より多くの市民の方に来てもらうために多彩なイベントを企画していくことも必要だと思います。例えば、「図書館と漫画」などで子どもたちを呼び込んだり、「図書館と英語」等ALTなどによる読み聞かせ等イベントをやったり、図書館でコンサートやかるた大会、書初め大会等とにかく図書館を使っているいろいろな文化的な催し物をして、一回図書館の中に入ってもらい、そういった取組ができないかと思っています。私自身もそういった催しなどお誘いがなく図書館に足が向かないところもあります。図書館に行かない人もこんなことをやっているのなら行ってみようかなどとなるのではないのでしょうか。婚活パーティーなど、ちょっと変わったことをやってもいいのではと思っています。

○軽部賢教育長

今回このテーマを議題にした訳は、図書館の築年数と時代に合った図書館のあり方を考えていく必要があるのではないかと思ったからです。市民全体の知的生活がネット社会になってきた今、それに対応した図書館になっているのだろうかと考えた時に、他の自治体でも様々な工夫していることもありまして、今月末に教育委員の研修でも東根のまなびあテラスなどを見に行く予定ですが、そういった複合施設であるとか、飲食ができて交流、利用者の憩いの場とな

っていることなど、多様なニーズに合った取組を行っています。米沢など新しい取組を発信しているところがあって、これからの市民の知的生活を考えた際に、こういった図書館のあり方が良いのか、これまでのやり方ではいけないのではないかと、市民目線で考えること、特色を出した取組で注目されたり、人を呼んでくること等の取組が必要なのではないかと、様々考えたところでこのテーマにさせていただきました。入館者は多くなっているのですが貸出冊数が少なくなっているという現状に関しては、インターネットの普及ということもあるのですが、手軽に電子図書を読める時代になっているし、その図書館でしかないもの等をそろえとかそういうことも一つの特色ではないかなと思います。他の図書館にはないものがあるとか、建造物そのものが素晴らしいであるとか、中にある調度品が素晴らしいから行ってみようかなど、そういったことがPRするものにはなるのかなと思います。今後、市民のためのもの、そして交流人口増にも貢献できるような図書館のあり方というものにリニューアルするとか、そういったコンセプトを考えていく必要があるのではないかなということこのテーマにさせていただいたところです。今日の新聞には川西町立図書館では本を借りるとポイントがもらえて、溜まると賞品がもらえる等といった記事が出ていて、こういった取組も市民の知的好奇心や活字に触れる機会を増やすことに結び付いていくのかなということを感じました。これからの寒河江市民の知的生活のあり方というものを考えた場合に、図書館ではこういったことをやっていくのかということを考えていく必要があるのではないかと思ったところです。

○佐藤洋樹市長

いろいろ皆さんからご意見を伺いましたが、図書館に限らず市の施設も年数が経っていることによってその時代のニーズに沿ったような対応をしていくことは、行政を担当しているものとして常に考えていかなくてはならないと思っています。今、委員の皆さんから多様な意見を頂戴いたしました、やろうと思えば来年からでも取り組めることはたくさんあります。そういうことを一つ一つ前向きに取り組んでいき、その過程で新たな課題も見つけるといったことも必要だと思います。ですので、何十年経過してからリニューアルするために新しい計画を立てる、といったことをしなくても今話のあった内容についてはそれぞれ取り組めることがあるので、一つ一つ取り組んでいくことによって、市民ニーズとも接点ができて、改善ができるものだと思います。私も東根の図書館等を見せていただきましたが、新しいものはいいと思いますが、本当はどの図書館もあまり変わりが無いのではないかと思います。図書館だからある程度静かにしなくてはいけないというところで、音の出ない映像等でPRしたりする取組など、機器の導入等でできると思います。音が出るとうるさいのでそういうことに取り組んでいけるとと思います。また、図書館は子どもたちが勉強する場として勉強部屋のようなスペースもなっています。そういった、来場者は増えるけれどもそういったことが果たしてそれだけでよいのかということだと思います。図書館という本来の役割、そういうことをどう充実させていくのか。そういった原点を忘れてはいけないですし、蔵書の充実やどういう蔵書があるのかというPRも必要かと思っています。イベントの充実についてもこれまでもやってまいりました。例えば、県出身の推理小説家など、4、5人いらっしゃると思いますが、そういった方々に図書館まつりなどに来てもらう等、そういった内容のものをやっていただきたいと思います。

駐車場の問題については場所を確保できるか等、物理的な要素がありますので、近くに確保

できればいいのですが、なかなかそうはならないので、簡単な案件ではないですが、その中でも例えばポイント制度等を設け、市役所の駐車場活用をPRし、利用を促すことも必要になったりしてくるのかなと思います。企画担当である図書館長には、以上のような取組の実現に向けて励んでいただきたいです。そして、市民の方へのきめ細やかな対応をしていただければと思います。カフェコーナーも設置いたしましたが、実は当初の段階ではそれなりの予算要求がありました。まずやってみて利用者のニーズを取り入れながら充実を図っていただければと思います。図書館に入って右側のスペースも、何かイベントがなければがらんとした状態ですので、あそこは入り口なので来場者を引き付けるような有効活用を検討していただければと思います。

親子で楽しめる図書館となると、声が聞こえても邪魔にならないような仕切りの設置等をしている図書館などもあるのでしょうか。寒河江市の図書館は狭くはないのですが、スペースを広げることは難しいです。声が周りの妨げにならないような工夫が必要になります。市民の皆さんから要望があれば、静寂のスペースと交流のスペースなどを設ける等いろいろ工夫してもらいたいと思います。こういった議論していくことで、図書館のあり方については夢の広がる場所なのではないかと思います。寒河江市の図書館は良い図書館ですのでより機能充実を図っていただければと思います。

もうひとつの課題としては2階の活用などがあるかと思いますが、今はどのように活用しているのでしょうか。

○鈴木多鶴子委員

会議室と小会議室、視聴覚室になります。その中でも、視聴覚室は比較的に利用されていないとのことですので、そこをどうするかだと思います。

○軽部賢教育長

PRをして、いろんな団体等に入っていていただいて、活用してもらい必要があると思います。

○佐藤洋樹市長

こういう話し合いをするということはリニューアル計画などを考えるということなのでしょうか。

○軽部賢教育長

これからこの話をベースにして、できることから取り掛かればと思います。

○佐藤洋樹市長

図書館もまもなく30年になりますのでリニューアル計画策定、ということもあるかもしれませんが。図書館のスペースは前が道路でなかなか広げられず、拡張しようとする、正面入り口左手の庭のところ程度しか敷地がありません。庭を駐車場にしてはいいのではないかとこの方もいらっしゃると思いますが、現実的には難しいのではと思います。どの程度リニューアルするのかわかるかというところもあると思います。

○軽部教育長

既存の施設を活用しながら館内スペースをより活用しやすいように、これからの時代に合ったような改善を進めていきたいと思っております。

○佐藤洋樹市長

リニューアルを考えた際に、どうしてもスペースは余分に必要になってくると思います。スペースを拡張できないとなると、限られたスペースをいかに活用するかが重要になります。そうしますと、やはり2階の会議室等をいかに活用するかということになると思います。

その他に何か意見をお持ちの方はいらっしゃいますか。図書館については以上となります。

(2) 高齢化社会に向けた生涯スポーツの振興について

○佐藤洋樹市長

それでは、引き続き高齢化社会に向けた生涯スポーツの振興について、をテーマに議論していきたいと思っております。はじめに、資料の説明をスポーツ振興課長の方からお願いいたします。

○小泉尚スポーツ振興課長

高齢化社会に向けた生涯スポーツの振興というテーマでご説明申し上げます。

高齢化社会が進む中で、スポーツや運動に取り組むことで健康寿命を伸ばすということが大変重要となっております。寒河江市のスポーツ実施率についてということで、資料1をご覧ください。平成23年度の調査では、週1回程度の運動を行っている方が30%と、決して高いとは言えない数値となっております。また、目標として年度を平成37年度としたスポーツ推進計画ではスポーツ実施率を65%まで上げる計画になっており、かなりハードルが高いものであると認識しております。

現在スポーツ振興課が行っている事業としては、前述のスポーツ実施率を高めるための一覧ですが、資料1の黄色部分になります。その中で、1つはスポーツが辛く苦しいものではなく楽しく体を動かすものである、といった意識改革を行うことが必要だと考えます。もう1つは、自発的にスポーツを始め、気軽に継続して取り組むことができる仕組みづくりが必要になると思います。資料1の右側に7点ほどを載せておりますけれども、具体案1つ目はウォーキングの推進であります。これは、最も気軽に誰でも始めることができるため、スポーツの入口だと考えております。他の自治体ではスマホアプリを活用したポイント制を導入し、達成者には賞品を進呈する取組を行う自治体もありまして、その点は効果的な手法であると感じているところです。

2つ目は、サイクルスポーツの推進であります。サイクルイベントに関しては、寒河江市でも開催しておりますが、それに加えて日常的にサイクルスポーツに取り組むような仕掛けづくりが今後必要だと思います。これはイベントとの相乗効果とも期待できるのではないかなと思います。

3つ目は、スポーツバーやサロンといったスポーツに親しむ人が集う場の設置であります。

パブリックビューイングの実施やスポーツ情報を発信する、いわば市民体育館のサテライト的な場として、民間企業とも協力しながら設置できればと思います。スポーツに興味がない人も一緒に集うことで、スポーツに興味を持ってもらうことができるのではないかと考えているところです。

4つ目は、市民体育館の個人利用促進のための施設整備であります。利用者が増大しているトレーニングルームの充実としまして、健康測定機器を整備することで高齢者層の利用促進が図られるのではないかと考えております。

5つ目は、スポーツメニューや指導体制の充実であります。体育協会や総合スポーツクラブの体制強化などが柱になると思っておりますが、人的な充実となるとなかなか難しいところもございます。民間のスポーツメーカーやスポーツクラブとの連携等を考えていく必要があるのではないかと考えています。

6つ目は、若い世代のニーズへの対応であります。若年層については、「スポーツの二極化」が話題となっており、スマートなイメージである、スラックラインやボルダリングといった新たなスポーツと接する機会の提供によってスポーツを始めるきっかけとなるものと考えております。

7つ目は、効果的な情報発信であります。スポーツに関する意識改革のため情報発信、ホームページやSNSのさらなる充実が必要になると考えております。

以上、7つの項目について説明申し上げましたが、配布資料も参考いただきながら、ご意見等頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○佐藤洋樹市長

只今、高齢化社会に向けた生涯スポーツの振興について説明ありましたが、皆さんの方からこういうことをやったらよいのではないかと等、質問でも結構ですのでご意見などございますか。

○國井晴彦委員

中学校の生徒数が減少することによって、部活動やスポーツのあり方も様変わりしております。ある種目においては人が足りない状況が寒河江市でもあります。このままでいきますと野球等、今までのメインだったスポーツも楽しむ人がだんだん少なくなり、状況としては厳しくなってくるのかなという気がします。資料を拝見しますと、若年層のスポーツの二極化について掲載されておりますが、ここでは若者と高齢者に分けて意見を述べたいと思います。

若者は人から見られたいという気持ちがありますので、ボルダリング等少し変わったスポーツのイベントを駅前の神輿広場あたりで開催できないかと考えています。可能であれば、ふるさと総合公園でやっているスケートボードなども駅前でやれば、若者たちにとってはみんなから見られてよいのかなと思います。また、パブリックビューイングの話もありましたけれども、駅前の神輿広場で椅子を並べてスポーツ観戦することも面白いと思います。パブリックビューイングと一風変わったスポーツを組み合わせることで、寒河江のまちづくりと駅前の賑わいづくりをプラスした生涯スポーツの一つとしてイベントができないかと思っております。スポーツというカテゴリに入るのかはわかりませんが、パブリックビューイングのスクリーンを活用してeスポーツの大会等を開催することも駅前の賑わいづくりをプラスしておもしろいイベントにな

るのかなと思いました。

高齢者に関しては、ふるさと総合公園と市民浴場のそばの公園と、グリバーさがえを一体化したウォーキングコースなどにできないのか、またそれを周回コースにして日本全国から元気な高齢者を集めて、ウォーキングやランニング、駅伝大会でもいいですが、会場自体が管理しやすいので、いいコースになると思いますので、そういった大会をぜひ企画していただけたらと思います。

最後にですが、子どもや高齢者に限らず、スポーツをする中で転んでケガをしないようなグラウンド、ぜひ人工芝のグラウンドがあればいいなと思っているところです。

○鈴木淳一委員

周りにスポーツをしている方がたくさんおまして、30%という資料の数値が信じられないと率直に思いました。やはり、趣味や好みは人それぞれですし、そういった趣味の方向性と一致しないと行動しない人もおります。あっと驚くような、注目を集めることが重要になってくると思います。来年は東京オリンピックもありますし、スポーツ関連のブームが起こったりするかもしれません。最近では、ラグビー日本代表の活躍でラグビーファンが増加することもありましたので、世間から注目があるとやってみたいというような傾向もあるのではないかなと思います。先ほど話のあったスラックライン等は今後も話題となりそうですので、多くの人目に触れる場所でイベント等を開催することも面白いかなとも思います。寒河江市はツールドさくらんぼ等、自転車でかなり注目を浴びているので、いい取組だなと感じていますが、また、先ほどポイントを活用したウォーキングについて紹介されておりましたが、このような取組を行うことで高齢者の方もスマホを活用したりして、気軽にスポーツに取り組むことができるようになるのではないのでしょうか。

○高橋まり子委員

私は鈴木委員とは逆で、スポーツにあまり縁がありませんが、そういった立場から考えると、スポーツという切り口よりは健康や美容、ダイエットといった切り口の方が興味を引かれます。先ほど國井委員も話していたとおり、若年層のスポーツへの参加が市全体の活性化に繋がると思います。そのことに関連して、学校の現場において部活動がいろいろな問題となっております。今、寒河江市では全校で部活動に全員入ることになっておりますが、全員加入という決まりを再検討していただければよいのかなと思っています。部活動以外にもクラブでの活動、新しいスポーツや空手、ダンス、水泳教室なども人気がありますが、それらと部活動を両立させるのは非常に難しいと聞いております。文化的な立場としてもそう思うので、そういう面から、思い切って学校ではないところの活動にもう少し下ろして行って、また同年代の子どもたちという枠組みからも離れて、多年代の人とも一緒にスポーツを楽しんでいけたり、部活動のかわりに親子でもスポーツに参加できるなどといった対応も含めて、学校でない現場でのスポーツを盛んにしていくことで市全体が盛り上がっていくこともあるのではと考えております。

○鈴木多鶴子委員

スポーツ振興課の方でも様々な取組がなされていて、いろいろな種類のスポーツが寒河江市内で行われていると感じております。今回、ラグビーワールドカップが開催され、私自身もにわかファンになりましたが、その中で残念に思ったのは、パブリックビューイングやスポーツバーといった場所が寒河江市にないことでした。そのような場所があれば、スポーツを観戦することで皆がつながり合って感動を分かち合ったり、いろいろな方々とのつながりができたのではないかなと思いました。私の年代がそう思うのであれば、若い年代の方はさらに強く思ったのではないのでしょうか。そういった場所があれば、市内外問わない交流や種目自体の興味関心が生まれやすくなるなど、今後そういった場所や機会があればスポーツへの興味に繋がるものと思います。

また、テレビ等でスポーツ大会などがあると「自分もやってみたい」という気持ちが生まれますので、人により興味関心が異なり難しいとは思いますが、試合映像の提供や多様な種目の受入を考えていく等、窓口を広く持っていていただければいいなと思います。

市民体育館のトレーニングルームに関してですが、市外に出てトレーニングする若い年代の方がいると聞いておりますので、機器等をさらに充実していただき、若い年代の方が寒河江市内でスポーツをするきっかけになるのではと考えております。

高齢者に関しては、健康に繋がるようなアドバイスを受けながらスポーツに取り組む環境が整っていただければいいなと思います。

○軽部賢教育長

先ほど高橋委員がお話されていた部活動の任意加入についてですが、いろいろところで研究されていて義務教育の段階ではそこに踏み込んでいる学校は県内ではないとは思いますが。子どもたちが部活動以外でやりたいことについては禁止しているわけではなく、部活動とそれ以外のことを両立することは認めているところです。ただ、学校側からすると部活動がない競技でも中体連の競技種目である場合は引率をつけないと出場できないということですので、無制限に部活動の数を増やすことはできないところがあります。以上のような事情もありながら、何とか工夫して子どもたちの多様性を認めながら部活動がある現状ですので、今後、任意加入については議論されていくのだろうと思っています。

今回、高齢化社会に向けた生涯スポーツの振興について、というテーマで議論しておりますが、競技スポーツというものの一方で、多くの市民を巻き込んだ手軽にできるスポーツとは何かと考え、ウォーキングや自転車などが良いのではないかと思います。市内には景色の良いスポットもありますのでそういう場所も推奨して歩いてもらうとか、歩いた後に温泉に行ってもらったり、おいしいものを食べてもらうとか、そういった推奨のモデルコースのようなものを紹介したり、サイクリングコースなども有効活用しながらできないかなと思っています。

また、先ほどのラグビーの話もありましたが、非常に盛り上がったということもありましたので連帯感といいますか、一緒になって盛り上げられる場があってもいいのではないかなと思いますので、委員の皆さんからも具体的にありましたが、スポーツバーがあったり、パブリックビューイングの設置等があったりしてもいいのではないかなと思います。

○佐藤洋樹市長

今日は高齢化社会における生涯スポーツというテーマであります。健康づくりということからすると先ほど國井委員からもありましたが、グリバーとふるさと総合公園、対岸の平塩一帯等を国土交通省とも相談して、かわまちづくりのプランを作ってもらっているところです。この辺りを周遊できるようにしていきたい、とこのように考えていますが、この中には温泉もありますし、成人病センターもありますので健康づくりも兼ねられるということで、これらをうまく活用した取組があってもよいのではないかと思いますので、これから整備をお願いしながら市でも一緒になってやっていければと思います。市民浴場などもリニューアルしようとしていますが、県の方では今までの市民浴場ではだめだということで、もう少し別な要素を入れて健康ランドの要素を入れた施設をつくってもらいたいと言われていています。そういう要素も入れた市民浴場を作っていきたいということですので、健康ランドのような施設になっていくのではないかなと思っています。

また、パブリックビューイングの話もありましたが、フローラにあるサンデーステージのところでも実施できるのではないのでしょうか。そういった場所や物をうまく活用していければ良いのではないかと思います。また、若い年代の方の興味を引くために新しいスポーツを寒河江市で行うという案は良いと思います。ただ、やはりそのスポーツを行う人がいなければ成り立たないかと思います。スケートボードの施設もありますが、市内出身の選手はいませんので、そういう選手が育ってくれればと思います。そうすると指導者も必要となりますので、総合スポーツクラブなどで新しいスポーツの指導教室のようなものを開催していただくと、若い年代の方も参加してもらえるのではと思います。アスポートもなかなか会員が増えないという悩みがあって、若い人が少なくて高齢化しているそうですので、このような取組など工夫していければと思います。

また、市民体育館のトレーニングルームの充実に関してですが、現状として若い年代の方が天童の総合運動公園の方に流れているとのことですので、低料金でトレーニングルームが使えるとするなら、そういうことも考えていきたいと思っています。

健康づくりという観点からすると、競技スポーツではなく、スポーツになじみの薄い方でも楽しめるようなものもあるのではないのでしょうか。さくらんぼウォーキングというも行われておりますが、現在、参加者1000名ぐらいですがまだまだ伸びしろがあるのではと思います。もう少し大々的に行うことができるのではと思っております。

スポーツに関しては、今後とも皆さんのお知恵をお借りしたいと思っています。

4 その他

○佐藤洋樹市長

その他に何かご意見ご質問ある方はいらっしゃいますか。

○鈴木多鶴子委員

昨年度の寒河江市総合教育会議の際に要望いたしました校務支援ソフトの導入ですが、今年度から導入され先生方に大変喜ばれておまして、働き方改革にも繋がるということでした。それとともに、学力向上支援員の増員では、昨年度登校できなかった児童も登校できるようになったり、落ち着いた学校もおかげで落ち着いたといううれしいお話を聞いております。

引き続き、支援員の体制整備等よろしくお願いいたします。

○佐藤洋樹市長

働き方改革については大変だと思います。働き方改革も含めた体制充実については教育委員会でもいろいろ考えていると思います。よろしくお願いいたしますと思います。

他に皆さんの方から何かございますか。なければ以上になります。

5 閉 会 午後3時53分